

随泉寺寺報

平成26年(2014年)5月号 第525号

TEL 082-892-0217 <http://www.zuisenji.com>

浄土真宗本願寺派 高峯山随泉寺

初参式・宗祖降誕会法座

講師 住職自修

講題 『いのちめぐまれて』

■親鸞聖人は、承安3年(1173)の5月21日にお生まれになりました。

聖人は、平安時代の末にあたる承安三年(1173)四月一日、太陽暦にして五月二十一日、京都の東南にあたる日野の里でお生まれになり、幼名を松若丸とよばれたと伝えられます。

父の名は日野有範といい、藤原氏のわかれで、官職は皇太后宮大進でありましたが、のちに出家して、三室戸大進入道とよばれ、日野から四キロほど南に行った三室戸に身をひそめられたようでありました。

また生母については、その名を吉光女といって、源氏の一族である義親の息女とか、義家の孫にあたるとかいわれ、聖人が八歳になられるとき死されたものといわれていますが、史実にはあきらかではありません。

5月の法座予定

- 5月 2日 本部役員会
- 5月 11日 掃除 長者原西
- 5月 15日 朝席午前10時より 初参式 降誕会法座
- 5月 15日 朝席午前11時より 門信徒会総会 おとき
- 5月 15日 昼席午後1時より 降誕会法座 映画『歩いても、歩いても』
- 6月 2日 午後5時より 門信徒会本部役員会



☆初参式

初参式とは、子どもが生まれたことを喜び、お寺に初めてお参りして受ける式です。平成25年に生まれた子どもをいっしょに集ってもらい、初参式をしてみんなに紹介し、お祝いします。

5月の親鸞聖人の御誕生日の法座で 午前10時より、当山随泉寺の本堂、阿弥陀さまの尊前で、厳粛におこなわれます。

家族の皆さんが一緒にお寺にお参りして、尊い仏縁に会うことはすばらしいことです。初参式という仏縁に遇って、それぞれのご家庭の中で、仏様の教えが中心となるような環境を作って頂き、子どもたちが仏の子として健やかに成長されますことを念じるものです。

初参式は、親や祖父母が仏縁の尊さを知っていただく、意義深い行事の1つです。お釈迦様は生まれるとすぐに七歩歩まれ、「天上天下唯我独尊」と宣言されたそうです。この言葉はこの世に人として生を受けたということは、一人一人が尊いかけがいのない”いのち”を持って生まれてきたということであり、その尊い”いのち”を、ほんとうに生かしていき行かねばならないということです。

その為には仏様の智慧に出会うていかねばなりません。仏の教えにあい、「ありがたい”いのち”であった。生まれてきてよかった。」と 見える人生にしていきたいものだと思います。

☆映画「歩いても 歩いても」

夏の終わりの海の近くの祖父母の家。お盆は終わり、どうやら一家の長男の命日に集まった様子の、長女一家と次男の一家。

ありふれたやりとりの中に、家族の事情が浮き上がる。長女は両親との同居を考えており、次男は嫁は子連れ再婚。長男は溺れた子どもを助けるために命を落としたこと。

家族には近いからこそ普段はあえて触れないタブーがある。そうして日常の、家族の平和を保っている。義兄の命日に、家族3人で夫の実家へ泊まり、一晚過ごすだけの、どこかの家にもあるような出来事が、なぜか、とても自然に映像化されている気がした。

これ…まあとにかく！樹木希林が演じる「おばあちゃん」のための映画…。私達が、子供から大人になり、結婚して子供が出来て、舅姑とのしがらみやらローンやらを抱え、歳をとり、やがて…。といった時期を迎えつつあるすべての人に当てはまる作品。



☆御礼

永代経懇志 金 貳拾萬円 椿谷 俊殿 故 椿谷 佐登子様 特 永代経志として
永代経懇志 金 拾萬円 今田 直樹殿 故 今田 治衛様 特 永代経志として

☆御礼

門信徒会へ 金 一封 椿谷 俊殿 故 椿谷 佐登子様 香典返しとして
門信徒会へ 金 一封 今田 直樹殿 故 今田 治衛様 香典返しとして

☆浄土真宗本願寺派門主大谷光真著 「あけぼのすぎ」

-- 浄土真宗一口法話 --5月

「他力は退却ではない 進む力を与えてくださるのだ」

(坂木恵定)

私達の人生には、嬉しいこと、悲しいこと、様々の事件が起こります。その中で、悪いことはしない、よいことをするのは、当然のことですが、良いことをしたつもりでも、実際には良い結 をもたらずとは限りません。自分たちだけに都合の良いこともあります。あるいは、人々の幸せ、世界の平和のように、誰が見ても良いことに、我が身がついていかないことも少なくありません。

私の思い、願いで、人生を積み上げ、世の中を築こうとしても、本当の安らぎ、落ち着きを得ることは、難しいのではないのでしょうか。

阿弥陀如来さまのおこころは、もう一つ広い世界から、この私を丸ごと受け止め、真実の世界、お浄土へと喚んでくださいます。南無阿弥陀佛が私のいのちとなって迷いの世界を力強く生き抜かせてくださいます。

お念佛申しつつ、共に歩ませていただきますよう。

☆ 5月 カレンダー

どの木もどの草も 輝きながら伸びていく

東井 義雄師

草も木も、いのちを輝かせながら伸びていく春です。

でも、伸びたがっているのは草や木だけではありません。どんなお子さんでも、仏さまの願いを信じ、仏さまのお心を心として接して下さる方にめぐりあうと、よい子にならずにおれなくなってきました。

Mくんは、一年生の頃から女の子の便所のぞきをする、家の金を持ち出してむだづかいをする、自分の席にじっとしていることができず、歩きまわってみんなの頭をたたいてまわる、お掃除の時間になると机をひっくり返す、ゴミを蹴散らして暴れまわる、未恐ろしいやんちゃ者といわれている子でした。

ところが、仏さまの願いを深く信じているK先生に、三年生になったとき、めぐり合いました。これはMくんが小学校を卒業してから述懐したことです。今までであったことのない、懐かしい方にめぐりあった気がしたというのです。最初の日「明日から勉強する教室、ピカピカにしようや」と先生がいわれたとき、「先生、ぞうきん貸してー」と、思わず叫んでしまったといいます。それをまた先生が喜んで

お母さんに手紙で報告されたのです。

お母さんは感激なさり、すぐぞうきんを縫ってあげていただきました。翌日「先生、きょうは借りんでもお母ちゃんが縫ってくれたー」と、ぞうきんを広げたときMくんはびっくりしました。「がんばれ、しつかり、しつかり」と、太い刺しゅうがしてあったのです。先生も感激して、「はよう枚長先生に見てもらってこい」と、いつつけてくださいました。やんちゃ者のくせに気の弱いMくんです。毎晩、日本海くらい寝小便をすると自慢しているやんちゃ者につきそわれて見せにきました。私も嬉しくて、仲間にとりまかれてぞうきんを広げているMくんを 真に してやりました。その頃から彼はものすごいがんばり屋になりはじめました。

そして、五月、鯉のぼりの下で運動会をやった時には、入学以来、文句ばかりいって走ったことのないMくんが、はじめて走りました。成績はビリから数えて二番目でしたが、先生は「きょうの一番よりもねうちがある」といって、肩をたたいて励ましてやってくださいました。こっそり見に来ておられたお母さんは、感激して、運動場の泰山木の木の下で、泣いてしまわれました。そして、こういう中で、ほんもののがんだり屋になっていったMくんでした。伸びたがっているのは、草や木だけではないのです。



☆ 「目に見えない宝物を残してくれて幸せ」

今田 照子

夫が逝ってから、様々な思い出が脳裏を一杯にして、涙が止まらない時があります。もう少し孫と遊びたかったでしょう。思いは沢山あります。夫の七十五才の生涯で、十八年前にギランバレー症候群と、三年前からは間質性肺炎で、在宅酸素生活でしたが、明るく前向きにディサービス 旅行を楽しみ、多くの友に出会い充実した日々を過ごすことが出来ました。

れの時 両手を高く上げ合掌した姿は、仏様がお迎えに来られたことに感謝と 私達に有難うの姿と、受け取り、身をもつての教えに愛する心 感謝の心を忘れず 一生懸命に生きたお父さんのために、私たち遺族も前を向いて歩いて行かなければと思っています。

門信徒会の皆様のご厚情に深く感謝申し上げます。

釋間治 今田 治衛

平成二十六年二月二十七日 七十五才



合掌